



2024年3月22日

各 位

会 社 名 不二製油グループ本社株式会社  
代表者名 代表取締役社長 CEO 酒井 幹夫  
(コード:2607、東証プライム市場)  
問合せ先 広報グループリーダー 岡本 祥治  
(TEL. 06-6459-0701)

## 当社連結子会社の構造改革に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、当社の連結子会社である Blommer Chocolate Company 社(米国、以下「Blommer 社」)の事業基盤と収益力の再構築を図るべく、下記内容を骨子とする構造改革を実施することを決議しましたのでお知らせいたします。

### 記

#### 1. 構造改革実施の背景と目的

2019年1月に連結子会社化した Blommer 社は、買収後に生じたコロナ禍の影響、原材料価格や金利の上昇及びインフレに伴う固定費増加等により、収益性が低下し、当第3四半期連結会計期間において特別損失を計上いたしました。しかしながら、米国市場において80年以上かけて築き上げたブランド力や各食品市場におけるリーディングカンパニーとの取引関係、幅広い顧客網に基づく競争力は健在であること、またチョコレートの個人消費量も多く、人口増加も見込める世界最大の業務用チョコレート市場である米国市場の成長は今後も継続すると見込まれることから、構造改革を実行することで、同社の収益力の早期復元は可能であると判断いたしました。Blommer 社は当社グループの業務用チョコレート事業の成長ドライバーであり、同社の収益力の回復はグループの長期的な成長に大きく寄与するものと確信しております。構造改革を果たし、グループシナジーの創出をより一層進め、Blommer 社をグループの価値創造の中核を担う企業に成長させてまいります。

#### 2. 構造改革の骨子

##### (1) シカゴ工場の閉鎖

Blommer 社が保有するシカゴ工場は、設備の老朽化による生産効率の低下及び修繕費の増加、立地特性から生じる人材確保上の困難、人件費の高騰等の構造的な要因により収益性が低下しておりました。経営資源の配分の適正化を図るべく、同工場における生産を終了し、工場の閉鎖を実施いたします。同工場の固定費を削減し、高付加価値チョコレート製品の他工場への生産移管による収益性の改善等を図ることで、30百万ドルの営業利益改善を見込んでおります。生産移管後の各工場の生産性改善及び高付加価値製品の生産体制強化により、2028年度にはシカゴ工場閉鎖前の水準を上回る販売数量を目指します。

## (2) カカオ加工事業の適正化

Blommer 社のカカオ加工事業は、業務用チョコレート事業における川上事業にあたり、顧客へカカオ加工製品を安定的に供給するとともに、カカオ加工製品を原材料として利用している自社のチョコレート製品の供給安定化に寄与してまいりました。一方で、近年の金利上昇やインフレの進行により、カカオ豆在庫の保有に関するコストの上昇による収益性の低下が課題となっておりました。環境の変化を踏まえてカカオ加工事業の規模を見直し、自社のチョコレート製品の原材料としての利用を主目的とする方針へ変更することで在庫保有コストの低減を図ります。

## (3) 差別化戦略の推進

高付加価値製品の生産体制の強化を目的として、キャンベルフォード工場(カナダ)での設備増強を行います。この設備増強により、米国の人口増加に伴う市場成長、チョコレート消費量の増加及び健康意識の高まりを背景とした低糖チョコレートやハイプロテインチョコレート等の高付加価値製品群の需要を取り込むとともに、開発、販売組織の再編を行い、従来以上に顧客及び市場のニーズにタイムリーに対応することにより、顧客及び消費者への貢献を果たし、更なる企業価値の向上を目指します。

## 3. 業績に与える影響

構造改革に係る費用による 2024 年3月期通期業績予想の変更等はありません。今後、公表すべき事項が生じた場合には、速やかにお知らせいたします。

## 4. 役員報酬の自主返納

Blommer 社における特別損失を真摯に受け止め、代表取締役から報酬返上の申し出がありました。内容については以下の通りです。

### 自主返納の内容

代表取締役社長 CEO : 月額基本報酬の 30%

### 対象期間

2024 年4月より6か月間

(注)本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上